

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 令和5年度

法人名	有限会社 相模テクノ	代表者	堀沢 暁子	法人・ 事業所 の特徴	・高齢者の方々に対し感謝し、尊敬と敬意を持って介護させて頂く事を理念とし、利用者に寄り添い利用者本位の支援をしている。法人は小規模ながら、居宅介護支援、訪問介護・看護から通所介護、GH、小規模多機能、テ高住等多機能なサービスがあり、利用者の状態・ニーズに対応したサービスを提供でき最後（看取り）まで対応している
事業所名	グループホーム あかつき	管理者	神田美貴子		

出席者 (書面含む)	町町職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	2人	2人	1人	0人	4人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己 評価の確認	<p>・成年後見制度や地域ケア会議への理解を深め、地域の方々から必要とされる事業所作り貢献したい。</p> <p>・WITHコロナ禍で、状況をみながら段階的に地域との交流を図っていく。</p> <p>具体的には、まず庭を一般開放し地域の方々の散歩等にご利用頂く。次にサニーヒルのサテライトルームをご家族と利用者との交流に使用する。</p>	<p>・WITHコロナで地域との交流をすすめて行く事の難しさを実感した。庭の一般開放は行っているが、数人の方のみの利用に留まっている。</p> <p>・サニーヒルの活用は進んでいないので、今回の改善計画に持ち越す。</p>	<p>・いずれも具体的な改善計画が記入されており、一歩ずつ達成して行く事が必要。</p> <p>・コロナはこのまま終息しないとされる。WITHコロナの環境下で家族や地域との交流はその時々状況を判断し進めてゆく事が大切。</p> <p>・利用者様個々の家族との関わりや地域資源の活用等、ケアマネの情報収集と職員との連携が必要。</p>	<p>・タブレット端末を利用し、介護記録等の共有化が定着したので、支援策向上の為、利用者の「小規模居宅介護計画書」等をケアアプリに取り込み、タブレット端末で検索できるようにして、支援に繋げる。</p> <p>・オレンジカフェや地域の保健室の活動を復活させる。</p>
B. 事業所の しつらえ・ 環境	<p>・WITHコロナでの活動になり、感染防止に努めながら出来るだけ家族や地域の方々交流できる場を作る。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直接面会できるように面会室や玄関、外の焚き火の広場等やサニーヒルを利用する</li> <li>2. 長期宿泊者の逆デイ（昼間家族と過ごし、夜間は事業所に泊まる）。希望者のみ</li> <li>3. 焚き火の広場で地域の方との交流を図る。敷地内に設置した自販機も地域の方々に自由にご利用頂く。</li> </ol>	<p>・民生委員になるまでこの事業所の雰囲気等は全く分からなかった。</p> <p>・今年1月にコロナのクラスター状態になり、玄関等出入りできなくしていた期間があったので、事業所の門や玄関に鍵がかかっているという方が2名あった。当事業所は普段夜間以外には一切鍵をかけていない。</p>	<p>・利用者のレクレーションの取組が偏っている。出来るだけ全員が参加できるような工夫が大切。</p> <p>・コロナ感染対策として、ワンフロアだった1階ホールをビニールカーテンで真ん中を仕切れるようにし、感染時のレッドゾーンを分けやすくしました。</p> <p>・コロナ禍でもBBQ等外での活動に取り組んでいますが、外で楽しみを感じる方、感じられない方いろいろある。感じられない方の対応をどうするか考えてゆく事が必要。</p>	<p>・昨年に引き続きWITHコロナでの活動になり、感染防止に努めながら出来るだけ家族や地域の方々交流できる場を作る。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直接面会できるように面会室や玄関、外の焚き火の広場等やサニーヒルを利用する。</li> <li>2. 小規模多機能の多様なサービスを活用し、逆デイや家族の利用等利用者とその家族を柔軟にサポートする。</li> <li>3. 焚き火の広場で地域の方との交流を図る。敷地内に設置した自販機も地域の方々に自由にご利用頂く。</li> </ol>



<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WITHコロナで状況をみながら段階的に地域との行事やイベントに参加する。</li> <li>①地域防災活動に協力し、11月の避難訓練は地域合同で行う。</li> <li>②地域のゴミゼロ活動等には参加する。</li> <li>③地域の祭りが再開した時には、状況を見て太鼓演奏等参加協力する。</li> <li>④サニーヒルdeカフェの再開を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災活動や避難訓練等は地域と合同で実施できていた。</li> <li>・地域のゴミゼロ活動やお祭り等にも協力していた。</li> <li>・オレンジカフェ（サニーヒルdeカフェ）や地域の保健室の再開はできなかったため、今年度の改善計画に持ち越しをする。</li> <li>・地域に事業所の知名度は上がっているが、まだまだ相談しやすい場所にはなっていないので、気軽に相談できる場所作りの工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の独居の方を小規模多機能のサービスで、支えている。脑梗塞（片麻痺）の方の在宅復帰や認知症で末期癌の方の看取り等多様なサービスで支えている。木持地区でも年々独居の家庭が増えている（年に5～6件増える）。民生委員さんと協力し、地域の方を支援してゆきたい。</li> <li>・地震等発生した場合、この地域でも古い家屋が増えて倒壊の恐れがある。事業所は緊急時の避難場所として、受け入れる体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続きWITHコロナで状況をみながら地域との行事やイベントに参加する。</li> <li>① 地域防災活動や避難訓練等は協力体制を継続してゆく。又地域の活動やイベント等には積極的に参加協力してゆく。</li> <li>② サニーヒルを活用し、駄菓子カフェや、地域の保健室を再開し、地域の方々の相談場所となってゆく。</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>コロナ禍で改善計画を実行できなかったため、次のとおり前回の改善計画を引き継ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の方々と連携を密にして、地域の困り毎等の相談に対応してゆく。</li> <li>・通所利用の方の地域の自治会やイベント等が分からないので、家族を通じ利用者の方が地域のイベントに参加できるよう支援してゆく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年1月のコロナ感染時には施設を閉鎖状態にしたが、現在施設は開放し、面会も健康チェック後自由にできている。</li> <li>・事業所は日中利用者も自由に入出りできる。計画的に行事として出かける事もあるが、その日の状況により、ドライブ等に出かける事も多く、利用者を楽しめる事はない。</li> <li>・利用者によっては外出を好まない人もあり、その人に適した行事も考えてほしい。</li> <li>・事業所の外に数台の自販機があり、ご近所の方が利用し庭でくつろいでゆく亭がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの利用者の地域資源に関する情報が不十分。担当地区の民生委員も把握出来ていない。</li> <li>・送迎時にご家族との関わりをとっている。近隣の方が声をかけて下さる事もある。</li> <li>・送迎時にご家族と関わりが持てない方や、連絡が取りづらい方は地域情報を把握しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用日数が少ない方、その場にご家族がいない方や近隣との付き合いについては、ケアマネに情報収集をして貰い部会で共有する。</li> <li>・再度、地域資源に関する学習会を（ケアマネ中心に）部会で行なう。</li> <li>・ケアマネは本人とご家族を通しての情報収集を行ない部会で共有する。</li> <li>・民生委員の方々と連携を密にして、地域の困り毎等の相談に対応してゆく。</li> <li>・通所利用の方の地域の自治会やイベント等が分からないので、家族を通じ利用者の方が地域のイベントに参加できるよう支援してゆく。</li> </ul>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・コロナの状況をみながら、地域の一部となり運営推進会議を活かし活動につなげてゆきたい。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ禍の状況をみながら、オレンジカフェを再開し、地域の交流を深める。</li> <li>2. サニーヒルで利用者と一緒に駄菓子屋を開き、地域の子供達と交流する。</li> <li>3. 地域の保健室を再開し、地域の健康管理を活かしたい。</li> </ol>	<p>・地域の心配事の事例検討は個人情報保護の観点で、取り組めなかった。</p> <p>・防災等に関しては、地域での取組が実践できている。</p> <p>・事業所の取り組みや状況は運営推進会議で初めて知った。</p> <p>・運営推進会議で利用者からの生の要望も多く出て、サービス改善に繋がっている。</p>	<p>・地域への情報発信や共助、協働への取組みへの足がかりにした。</p> <p>・地域住氏が気軽に相談等できる場所として、地域の代表へアピールする場として活用する。</p> <p>・当事業所の運営推進会議には、行政関連の方々ほとんど出席しない。出席しないのに、行政として運営推進会議をどう活かすのかわかりたい。</p>	<p>・昨年に引き続き、コロナの状況をみながら、地域の一部となり運営推進会議を活かし活動につなげてゆきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ禍の状況をみながら、オレンジカフェを再開し、地域の交流を深める。</li> <li>2. サニーヒルで利用者と一緒に駄菓子屋を開き、地域の子供達と交流する。</li> <li>3. 地域の保健室を再開し、地域の健康管理を活かしたい。</li> <li>4. 地域事業所との合同研修を再開し、地域事業者の連携とレベルアップを図る。</li> </ol>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・WITHコロナで状況をみながら、前回の改善計画を引き継ぐ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の方々にも参加して避難訓練や防災訓練を実施する。</li> <li>2. 11月の避難訓練は地域と合同で実施する。自主防災組織に位置づけられている事業所としての役割を果たせるよう訓練する。</li> </ol>	<p>・地域の自主防災組織にも位置づけられており、防災計画は概ね知っている。</p> <p>・昨年は防災訓練に参加し、合同の訓練ができた。</p> <p>・地域の自主防災組織に位置づけられており、災害時は地域の避難場所にもなっている。</p> <p>・大地震が来た時に、この地域も老朽化した家があり倒壊の怖れもある。この事業所は耐震工事がされており、その様な時には避難場所として頼りにしている。</p>	<p>・何年か地域合同の防災訓練をしているので、引き続き合同訓練を続けたい。</p> <p>・ソーラ発電により、災害時にも電気が使用できるようになっており、地域の避難場所として、地域に貢献できる体制ができている。</p> <p>・避難訓練では、炊き出し訓練等を行い、災害時の対策を訓練している。飲み水と備蓄米も備えておりBCPに沿った備えをしている。</p>	<p>・引き続き、前回の改善計画を引き継ぐ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の方々にも参加して避難訓練や防災訓練を実施する。</li> <li>2. 11月の避難訓練は地域と合同で実施する。自主防災組織に位置づけられている事業所としての役割を果たせるよう訓練する。</li> <li>3. BCPについて、全員参加の研修を行い、事業所の防災計画や災害時の事業継続計画について学ぶ。</li> </ol>